

今秋の關西聯合保育會に提出

されたる談話題に就て

大塚喜一

今秋の關西聯合保育會は十一月五日に神戸で開かれるさうである。それに提出された談話題の中には、かねてより小生が重要な問題として考へて居たものがあるので、その二三に就て大體のねらい、さか考への絲口をかいつぶきものを述べ、且今迄あつた講習や本誌の記事等の中に是等の問題の解明に直接必要であり極めて適切と思はるゝものがあるから、それ等に就て諸賢と偕に考へて置きたいと思ふのである。本文を草するに至つた最大の動機は當日の會合の意義と効果を徹底せしめ提出されたる諸問題に對する我等の努力の總決算に迄到達せんとの念願であつて、この會合により我等の今後の保育態度が幼兒の眞實なる生活形態に一層適切なるやうピツタリこ來るやうに劃期的進境を

示さむ事を所期する次第である。

提出されたる談話題の中、先づ名古屋市保育會提出の「自由遊びの取扱ひ方に就て承りたし」が第一に小生の目についた。それもその筈今夏東京の講習での質議に小生が提出しやうと思つたもう一つの問題は「幼兒の自由遊を充實せしめむが爲めに保育過程上保姆の爲すべき積極的努力如何」であつた。實は會場で名古屋の沼波先生にお目にかつた時この問題の出る事を承り、それは小生のかねてよりの中心問題であるにて小生の題意等いろいろ話し合つたのであつた。そこでこの問題に直接關係深き資料は

一、大正十三年七月大阪にての倉橋先生の「幼兒教育原論」講習である。中にも共鳴並機會捕捉の原則と「幼稚園の

保育項目は何れも内容として自由遊戯の中に含まれてゐる。云はれた點は根本的に大切である。

二、「幼稚園雜草」中「幼稚園の朝」殊に「あそびから教育へ」、いつの間にか引き入れてゆく所に幼稚園の先生の手腕がある(二〇二頁)。

「子供の生活の中に幼稚園を見出す」(二〇三)。

三、京都府女子師範學校附屬幼稚園主任保姆貝利枝先生が理論實際兩方面より研究せられたる「幼児教育に於ける自由遊戯の新生面」。

四、今夏東京にての倉橋先生の「保育の眞諦並に保育案 保育過程の實際」(本誌前號所載)このお話は全體が有機的統一をなして居りますので、ここが特に大切なのか、指摘する事は困難であり却て適切でないかと思はれる。問題中の「取扱ひ方」といふ語が實際に當つてさうすればよいのか、いふ事を聞いてゐられると思ひますので、そうした間に對してはこのお話から教へられる事が最も多いと思ひます。しかもこの方法をして方法以上のものたらしめる所にこのお話の生命即ち「眞諦」があるのですから、我々は本題の解

明に當つてはいろいろ考へて來て結局はここへ來るのではないか、そういう風に考へを進めて來るのが自由遊に對する保姆の態度を最も正當に見きわめる事になるのだと思ひます。

* * *

次に神戸市保育會提出の「幼稚園に於ける遊戯の基本的態度に就て承りたし」の基本的なる語に就て是非會前に諸賢の御注意を願ひたい事がある。昭和六年秋名古屋での保育大會の節「幼稚園に於ける談話の基本的態度如何」なる問題が京都から出た。あの問題をさういふ字句を以て提出するかに就て案を練つた時に、實は「基本教育としての談話の態度如何」。

書ききたかつたのであるが、さうするに嬰兒期のお話から論じ始めねばならなくなるので「幼稚園に於ける」なる字句を冠するを要したの、更に重要な點は基本教育としての大切な所は談話の材料の配列分類等よりも實際のおはなしの態度にあるので、その點を充分に説明して頂きたかつたから基本的態度如何と問ふたのである。幼稚園の問題なる

故に基本教育の立場から當然論ぜらるべきは云ふまでもないと思つた。然るに當日の御答を通覽して見るに、この基本的なる語が唯一般に根本なる大切な點といふ位の意味に解せられてか、基本教育といふ明らかな立場から本題を提出したのだと解して頂く事が困難であつた。そこで、

今回神戸市より本題を提出された方がこゝにいふ意味で「基本的態度」といふ言葉を使はれたかはまだお尋ねしてゐないが、こゝにかく幼稚園の問題を論ずる限り、基本教育としての特質から考察すべきものであるから、この問題の主旨を「基本教育としての特質を徹底せしめむが爲には幼稚園の遊戯に於て如何なる態度をとるべきか」と解したいと思ふ。そうすれば提出者の問はるゝ所も當然充分に徹底的に解明さるゝ筈である。

こゝまで讀んで頂いたら、賢明なる讀者は恐らく本誌第三十二卷第五號の拙稿「基本教育としてのおはなし」を思ひ出さるゝであらう。(名古屋の大會の記録を本誌上に掲載されたものゝ中委員長として小生の報告した所だけが何の因果か實に誤字だらけであつたので、當時の委員会で相談し

た主旨に基いて書き直したものがあれである。)遊戯も要するにこの調子で行けばよいのである。「子供と語る」こゝがおはなしの本義である様に、「子供と遊ぶ」事が遊戯の本義である。故に、自由遊びと表情律動等の遊戯とは極めて親しき相助的關係にあり、保母は子供と共に遊ぶ間に遊戯の基本的態度を子供から學ぶべきである。幼兒に「何をしませうか」「どんな遊戯が好きですか」等問ふて要求せらるゝものが大抵單純素朴なるごつこ風のもの多きは、幼兒に適切なる遊戯は如何なる種類、性質のものであり之を取扱ふには如何なる態度を以てすべきかを吾人に教ふるものである。僕はこの意味に於て土川先生の遊戯が幼稚園に極めて適切なるに敬服するに共に、先生の講習を受けられた方はこの意味に於て充分之を活用して頂きたいと思ふ。苟くも保母に遊戯の講習をする以上、講師も受講者も基本教育のこの特質を第一に念頭に置くべきである。若しこゝを離れて單に外形の美にのみ走らむか却て幼兒を毒し自己の天職の神聖を汚すものとなるであらう。幼稚園雜草二二三一頁倉橋先生、「幼兒の舞踊に就て」及本誌第三十卷第十號堀先生

「幼児の唱歌遊戯」参照) こうした幼稚園の遊戯獨特の動きは今夏東京の講習にて戸倉先生の御指導を受けられたる方の何れも實感せられる所であらう。本誌前號九十一頁に戸倉先生が「幼児の心にかへりて」を題して述べられたる所は小生が今此處に云はむに欲してその表現に苦心しつゝある所を端的に鮮明に實際的に極めて適切に解明啓示せられてゐる、幼稚園の遊戯に就て思を致さるゝ先生方は、今回の講習までに戸倉先生が如何に子供から學ばむに努力して來られたかを本文を通じて學ばるゝと共に「子供等にくらく自由に表示させる志向を起させるのこそよき指導者、よき保姆である」この講師の眞の基本的態度を各自が日幼児に接しつゝある實行の中に學ばれむ事を切望する。小生は本文を讀んで遊戯に就て今述べべき事は戸倉先生の御高見の中に盡されたやうに思ふので、當日の會合にはこの態度この方向に向つての先生方の御體験談を聽く事を樂しみとして、この項を結ぶことにする。

* * * * *

京都市保育會提出の「都市の幼稚園に於て特に保育上考

慮すべき點」を見て、先づ倉橋先生が昨年七月大阪の「都市幼児教育講習會」に於て三日間お話せられたのを思ひ出す。この講習の内容は今回提出されたる本題の爲に教へて頂いたのかと思へる程よく附合してゐる。この講習に於て先生は云はれた「こゝせ都市の幼稚園は無理な世界である。我々はこの都市の不自然なる文化過重の弊害から幼児を救ひその本來の原始的な自然生活を全うし得る様に努力せねばならぬ」云々。小生の如く方々の幼稚園を訪問する機會に恵まれた者は、都市の幼稚園が郊外に比して如何に困難な苦勞が多きかを拜見する度にお氣の毒に感ずる位である。從て今回の如き談話題の提出さるゝのは如何にも、つゞもな次第であつて、所變れざこの苦勞には恐らく同じ心の動きがある。大阪の講習の後倉橋先生は「この講習は聽いてもらつただけでは有難くない、後の實行が大切である。」と本誌に記してゐられたのを思ひ出す。今當時のノートを取出して見ると、大阪の方の幼児教育に御熱心な事を始めに賞讃してゐられるのを見て一層先生の御期待の大なるを感ずる次第、恐らく今回の會合では本題提出者の満足する様な多年

の御苦心に基く血の出るやうな生きた體驗談が伺へるものと特に期待する次第である。苦勞の大きい程その報らられた時の喜びは大きい。不自由な環境の中に居りつゝ幼児に自らの生活をさせたいと念願する親心は、一人の發表者の心から全會集の心へ激刺たる共鳴感應を以て傳はるであらう。先生はこの講習の終りに云はれた。「この講習で力説した事は都市ではなかく實現出來ないと思はれる所もあるが、全局面を一時に改良せんと思はれず小さい所から段々にやつて行けば、私の話した事よりも皆さん自身の生活の中から次々に改まつて來る事と思ふ。殊に皆さんには幼児といふ力強い味方がある」と。實に我々にまつて伺ひふ有難い御言葉であらうか。お互に會合して日頃の質疑・研究・感想・體驗等を語り合ふのも、實は誰しもの最も切實なる念願たる幼児の良き友となりその純真なる信頼に副ふ者となりたいとの本念ゆゑである。小生は、何卒今回の會合が、幼児と共に生きる保育態度の中に各人の共鳴一致を見出す純愛の結晶に至らむ事を祈りつゝこの稿を終りたいと思ふ。(昭和八、九、二八夜)

御寄稿下さい

論説

感想

質問

經驗談

葉書により

其他

諸友へ

編輯部